

MASTER ENGLISH
STEP BY STEP

GRAMMAR
BUILDS
YOUR
POSSIBILITIES

THE INFINITIVE

— 不定詞で、英語がもっと自由になる —

A KEY TO CLEARER EXPRESSIONS

*to Learn
to Think
to Challenge
to Grow*



LANGUAGE
OPENS
NEW HORIZONS.

- (1) 次の中から、形容詞と副詞が同じ形になる語の組み合わせとして、最も適切なものを1つ選びなさい。
- ① fast・hard・early・late
 - ② high・friendly・careful・slowly
 - ③ daily・difficult・recently・quietly
 - ④ long・beautiful・usually・sudden
- (2) 自動詞についての説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。
- ① 自動詞は、動詞の後ろに目的語を必要とせず、それだけで文の述語になることができる動詞である
 - ② 自動詞は、動詞の後ろに必ず目的語を必要とし、「～を・～に」にあたる語を伴う動詞である
 - ③ 自動詞は、動詞の後ろに必ず〈to＋動詞の原形〉を置き、その不定詞を目的語とする動詞である
 - ④ 自動詞は、動詞の後ろに名詞を直接置き、その名詞を修飾する働きをする動詞である
- (3) 他動詞についての説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。
- ① 他動詞は、動詞の後ろに目的語を必要とし、「～を・～に」にあたる語を直接続けることができる動詞である
 - ② 他動詞は、動詞の後ろに目的語を必要とせず、それだけで文の述語になることができる動詞である
 - ③ 他動詞は、動詞の後ろに必ず前置詞を置き、〈前置詞＋名詞〉の形で目的語を続ける動詞である
 - ④ 他動詞は、動詞の後ろに必ず〈to＋動詞の原形〉を置き、その不定詞によって動詞の意味を説明する動詞である
- (4) be 動詞についての説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。
- ① be 動詞は、主語と後ろの語句を「＝(イコール)」の関係で結び、主語の状態・性質・正体などを説明する動詞である
 - ② be 動詞は、後ろに目的語を必要とし、「～を・～に」にあたる語を直接続ける動詞である
 - ③ be 動詞は、主語が行う具体的な動作を表し、「～する」という意味を表す動詞である
 - ④ be 動詞は、後ろに必ず前置詞を置き、〈前置詞＋名詞〉の形で主語の動作を説明する動詞である
- (5) 「自動詞」についての説明として、間違っているものを1つ選びなさい。
- ① 自動詞は、動詞の後ろに目的語を必要とせず、主語と動詞だけでも基本的な文の形を作ることができる動詞である
 - ② 自動詞は、動詞の後ろに目的語を必要としないが、必要に応じて「～を」「～に」にあたる目的語を前置詞なしで直接続けることができる
 - ③ 自動詞の後ろに名詞を続けて、その名詞との関係を表す場合には、一般に前置詞を用いて〈自動詞＋前置詞＋名詞〉の形にする

- ④ go・come・arrive・happen などは主に自動詞として用いられ、動詞の直後に「～を」「～に」にあたる目的語を直接置くことはできない
- (6) 「他動詞」についての説明として、間違っているものを1つ選びなさい。
- ① 他動詞は、動詞が表す動作・行為の対象となる目的語を必要とし、基本的に〈他動詞＋目的語〉の形で用いられる動詞である
- ② 他動詞の後ろには、「～を」「～に」にあたる目的語を前置詞なしで直接置くことができ、名詞・代名詞などが目的語になる
- ③ have・like・visit・discuss などは主に他動詞として用いられ、動詞の直後にその動作・行為の対象となる目的語を置くことができる
- ④ 他動詞の後ろに名詞を目的語として続ける場合には、原則として前置詞を用いて〈他動詞＋前置詞＋名詞〉の形にする必要がある
- (7) live の使い方について、間違っているものを1つ選びなさい。
- ① live は「住んでいる・暮らす」の意味では主に自動詞として用いられ、I live in Osaka. のように場所を表す場合は前置詞を用いる
- ② live の後ろに住んでいる場所を表す名詞を続ける場合、live in a city や live near the station のように、場所との関係に応じた前置詞を用いる
- ③ live は「～に住む」という意味の他動詞として用いられるため、I live Osaka. のように場所を表す名詞を目的語として直接続けることができる
- ④ live は「生きる・生活する」の意味でも自動詞として用いられ、He lived for ninety years. のように目的語を置かずに用いることができる
- (8) run は自動詞・他動詞の両方で用いられる動詞である。run の使い方について、間違っているものを1つ選びなさい。
- ① run は「走る」の意味では自動詞として用いられ、He runs every morning. のように目的語を必要としない
- ② run は「～を経営する・運営する」の意味では他動詞として用いられ、She runs a small restaurant. のように目的語を直接続ける
- ③ run は「～を経営する・運営する」の意味でも自動詞として用いられるため、目的語の前には必ず前置詞を置く必要がある
- ④ run は「走る」の意味で場所を続ける場合、He ran in the park. のように前置詞を用いて場所を表すことができる
- (9) go と visit の違いについて、間違っているものを1つ選びなさい。
- ① go は「行く」の意味では主に自動詞として用いられ、行き先を表す場合は go to the museum のように、原則として前置詞 to を用いる
- ② visit は「～を訪れる」の意味では他動詞として用いられ、visit the museum のように、訪れる場所を目的語として前置詞なしで直接続ける
- ③ go と visit はどちらも場所への移動を表すことができるが、go to Kyoto に対して visit Kyoto のように、後ろの名詞とのつながり方が異なる

- ④ go と visit はどちらも自動詞として用いられるため、「その博物館へ行く・訪れる」は go to the museum、visit to the museum のように前置詞を用いる
- (10) discuss と talk の違いについて、間違っているものを1つ選びなさい。
- ① discuss は「～について話し合う」の意味では他動詞として用いられ、We discussed the problem. のように目的語を直接続ける
- ② talk は「話す」の意味では主に自動詞として用いられ、話題を表す場合は We talked about the problem. のように前置詞 about などを用いる
- ③ discuss と talk はどちらも自動詞として用いられるため、「～について話す」という場合は discuss about ～、talk about ～ の形にする
- ④ discuss の後ろに話し合う内容が続ける場合は、discuss the plan のように前置詞 about を置かず、名詞を目的語として直接続ける
- (11) look と see の違いについて、間違っているものを1つ選びなさい。
- ① look と see はどちらも他動詞として用いられるため、「その写真を見る」は look the picture、see the picture のように目的語を直接続ける
- ② look は「見る・目を向ける」の意味では主に自動詞として用いられ、対象を表す場合は Look at the picture. のように前置詞 at を用いる
- ③ see は「～を見る・～が見える」の意味では他動詞として用いられ、I saw a beautiful bird. のように目的語を前置詞なしで直接続ける
- ④ look の後ろに見る対象が続ける場合は、look at the picture のように前置詞 at が必要だが、see では see the picture のように目的語を直接続ける
- (12) listen と hear の違いについて、間違っているものを1つ選びなさい。
- ① listen は「耳を傾けて聞く」の意味では主に自動詞として用いられ、対象を表す場合は Listen to the music. のように前置詞 to を用いる
- ② listen と hear はどちらも他動詞として用いられるため、「音楽を聞く」は listen the music、hear the music のように目的語を直接続ける
- ③ hear は「～が聞こえる・～を耳にする」の意味では他動詞として用いられ、I heard a strange noise. のように目的語を前置詞なしで直接続ける
- ④ listen の後ろに聞く対象が続ける場合は、listen to the music のように前置詞 to が必要だが、hear では hear the music のように目的語を直接続ける
- (13) get A と get to A の違いについて、間違っているものを1つ選びなさい。
- ① get は「～を手に入れる」の意味では他動詞として用いられ、I got a new computer. のように目的語を前置詞なしで直接続ける
- ② get は「～に到着する」の意味では自動詞として用いられ、場所を表す場合は I got to the station. のように前置詞 to を用いる
- ③ get は「～に到着する」の意味でも他動詞として用いられるため、I got the station. のように場所を表す名詞を直接目的語として続けることができる
- ④ get A では A は get の目的語となるが、get to A では A は前置詞 to の目的

語となり、get 自体は自動詞として用いられている

- (14) 「完全文」と「不完全文」の違いについて、最も適切な説明を 1 つ選びなさい。
- ① 完全文とは、主語・動詞に加えて、その動詞が必要とする目的語・補語などがそろっており、独立して文として成立するもので、不完全文とは、必要な要素が欠けており、独立して文として成立しないものである
 - ② 完全文とは、主語・動詞に加えて、その動詞が必要とする目的語・補語などがそろっている文であり、不完全文とは、主語または動詞が欠けている文だけを指す
 - ③ 完全文とは、主語・動詞に加えて、必ず目的語までそろっており、独立して文として成立するもので、不完全文とは、それらの要素の一部が欠けているものである
 - ④ 完全文とは、主語・動詞に加えて、その動詞が必要とする要素がそろい、独立して文として成立するもので、不完全文とは、文法的には成立しているが意味だけが不明確な文を指す
- (15) 「主語」の説明として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。
- ① 主語とは、文の中で「誰が・何が」にあたる部分で、動作・状態・性質などの主体を表し、名詞・代名詞などが主語になる
 - ② 主語とは、文の中で「誰を・何を」にあたる部分で、動詞が表す動作・行為の対象を表し、名詞・代名詞などが主語になる
 - ③ 主語とは、文の中で「どのように・どの程度」にあたる部分で、動詞や形容詞の意味を詳しく説明し、副詞・副詞句などが主語になる
 - ④ 主語とは、文の中で「どのような」にあたる部分で、人や物の状態・性質を詳しく説明し、形容詞・形容詞句などが主語になる
- (16) 「目的語」の説明として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。
- ① 目的語とは、動詞が表す動作・行為の対象となる語で、日本語では主に「～を」「～に」にあたり、名詞・代名詞などが目的語になる
 - ② 目的語とは、動詞が表す動作・行為の対象となる語で、日本語では主に「～を」「～に」にあたり、形容詞・形容詞句などが目的語になる
 - ③ 目的語とは、動詞が表す動作・行為の対象となる語で、日本語では主に「～を」「～に」にあたり、副詞・副詞句などが目的語になる
 - ④ 目的語とは、動詞が表す動作・行為の対象となる語で、日本語では主に「～を」「～に」にあたり、前置詞・前置詞句などが目的語になる
- (17) 「補語」の説明として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。
- ① 補語とは、主語や目的語の状態・性質・正体などを説明する語で、主語や目的語と「＝(イコール)」の関係になり、名詞・形容詞などが補語になる
 - ② 補語とは、主語や目的語の状態・性質・正体などを説明する語で、主語や目的語と「＝(イコール)」の関係になり、副詞・副詞句などが補語になる
 - ③ 補語とは、主語や目的語の状態・性質・正体などを説明する語で、主語や目的語と「＝(イコール)」の関係になり、補語になるのは形容詞のみである

④ 補語とは、主語や目的語の状態・性質・正体などを説明する語で、主語や目的語と「＝（イコール）」の関係にはならないが、名詞・形容詞などが補語になる

(18) 不定詞の名詞的用法とは、どのような用法か。

- ① <to＋動詞の原形>が、文中で主語・目的語・補語などになる用法
- ② <to＋動詞の原形>が、名詞を修飾し、その名詞の内容などを説明する用法
- ③ <to＋動詞の原形>が、動詞・形容詞などを修飾し、目的・原因・結果などを表す用法
- ④ <to＋動詞の原形>が、文全体を修飾し、話し手の判断だけを表す用法

(19) 不定詞の形容詞的用法とは、どのような用法か。

- ① <to＋動詞の原形>が、文中で主語・目的語・補語などになる用法
- ② <to＋動詞の原形>が、名詞を修飾し、その名詞の内容などを説明する用法
- ③ <to＋動詞の原形>が、動詞・形容詞などを修飾し、目的・原因・結果などを表す用法
- ④ <to＋動詞の原形>が、文全体の主語となり、その後ろの内容を説明する用法

(20) 不定詞の副詞的用法とは、どのような用法か。

- ① <to＋動詞の原形>が、文中で主語・目的語・補語などになる用法
- ② <to＋動詞の原形>が、名詞を修飾し、その名詞の内容などを説明する用法
- ③ <to＋動詞の原形>が、動詞・形容詞などを修飾し、目的・原因・結果などを表す用法
- ④ <to＋動詞の原形>が、名詞の代わりとなり、必ず目的語として用いられる用法

(21) 不定詞の後に<V>が続く場合、その不定詞の文中での働きについて、最も適切な説明を1つ選びなさい。

例: To study English is important.

- ① 不定詞全体が、後ろに続く動詞<V>の主語となるため、不定詞は名詞的用法である
- ② 不定詞全体が、後ろに続く動詞<V>の目的語となるため、不定詞は名詞的用法である
- ③ 不定詞全体が、後ろに続く動詞<V>の意味を詳しく説明するため、不定詞は副詞的用法である
- ④ 不定詞全体が、後ろに続く動詞<V>を修飾するため、不定詞は形容詞的用法である

(22) 不定詞の後に<S＋V>が続く場合、その不定詞の文中での働きについて、最も適切な説明を1つ選びなさい。

例: I went to the library to study English.

- ① 不定詞全体が、後ろに続く<S＋V>の目的語となるため、不定詞は名詞的用法である
- ② 不定詞全体が、後ろに続く<S＋V>を修飾するため、不定詞は副詞的用法である
- ③ 不定詞全体が、後ろに続く<S＋V>の主語となるため、不定詞は名詞的用法である
- ④ 不定詞全体が、後ろに続く<S＋V>を修飾するため、不定詞は形容詞的用法である

(23) be 動詞の後に不定詞が続く場合、その不定詞の文中での働きについて、最も適切な説明を1つ選びなさい。

例: My dream is to become a doctor.

- ① 不定詞全体が、主語の内容を説明する補語となるため、不定詞は名詞的用法である
- ② 不定詞全体が、be 動詞の目的語となるため、不定詞は名詞的用法である

- ③ 不定詞全体が、be 動詞の意味を詳しく説明するため、不定詞は副詞的用法である
- ④ 不定詞全体が、主語を修飾してその性質を説明するため、不定詞は形容詞的用法である

(24) 完全文の後に続く不定詞の用法について、最も適切な説明を1つ選びなさい。

- ① 不定詞の前までで完全文が成立している場合、不定詞が直前の名詞を修飾していれば形容詞的用法、動詞または形容詞などを修飾していれば副詞的用法となる
- ② 不定詞の前までで完全文が成立している場合、不定詞が直前の名詞を修飾していれば名詞的用法、動詞または形容詞などを修飾していれば副詞的用法となる
- ③ 不定詞の前までで完全文が成立している場合、不定詞が直前の名詞を修飾していれば形容詞的用法、動詞または形容詞などを修飾していれば名詞的用法となる
- ④ 不定詞の前までで完全文が成立している場合、不定詞が直前の名詞を修飾していても、動詞または形容詞などを修飾していても、すべて副詞的用法となる

(25) 他動詞の後に〈to V〉が続く場合、その不定詞の文中での働きについて、最も適切な説明を1つ選びなさい。

例:I want to study English.

- ① 不定詞全体が、前の他動詞の目的語となるため、不定詞は名詞的用法である
- ② 不定詞全体が、前の他動詞の主語となるため、不定詞は名詞的用法である
- ③ 不定詞全体が、前の他動詞の意味を詳しく説明するため、不定詞は副詞的用法である
- ④ 不定詞全体が、前の他動詞を修飾してその内容を説明するため、不定詞は形容詞的用法である

(26) 自動詞の後に〈to V〉が続く場合、その不定詞の文中での働きについて、最も適切な説明を1つ選びなさい。

例:I went to the library to study English.

- ① 不定詞全体が、前の自動詞の目的語となるため、不定詞は名詞的用法である
- ② 不定詞全体が、前の自動詞の意味を詳しく説明するため、不定詞は副詞的用法である
- ③ 不定詞全体が、前の自動詞の主語となるため、不定詞は名詞的用法である
- ④ 不定詞全体が、前の自動詞を名詞として修飾するため、不定詞は形容詞的用法である

(27) 〈be 動詞＋形容詞〉の後に〈to V〉が続く場合、その不定詞の文中での働きについて、最も適切な説明を1つ選びなさい。

例:This book is easy to read.

- ① 不定詞全体が、前の形容詞の目的語となるため、不定詞は名詞的用法である
- ② 不定詞全体が、前の形容詞の意味を詳しく説明するため、不定詞は副詞的用法である
- ③ 不定詞全体が、文の主語となるため、不定詞は名詞的用法である
- ④ 不定詞全体が、前の形容詞を名詞として修飾するため、不定詞は形容詞的用法である

(28) 〈be 動詞＋感情を表す表現〉の後に〈to V〉が続く場合、その不定詞が表す意味について、最も適切な説明を1つ選びなさい。

例:I was surprised to hear the news.

- ① 不定詞は、その感情が生じた原因・理由を表し、「～して…だ」という意味になる
② 不定詞は、主節の動作を行う目的を表し、「～するために」という意味になる
③ 不定詞は、主節の動作の結果を表し、「その結果～した」という意味になる
④ 不定詞は、判断をするための根拠を表し、「～するとは・～するなんて」という意味になる
- (29) 不定詞〈to V〉を否定する場合の形について、最も適切な説明を1つ選びなさい。
① 不定詞の直後に not を置き、〈to not V〉の形にする
② 不定詞の直前に no を置き、〈no to V〉の形にする
③ 不定詞の直前に not を置き、〈not to V〉の形にする
④ to の直後に no を置き、〈to no V〉の形にする
- (30) 〈in order to V〉についての説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。
① 「～した結果」という意味を表し、不定詞の結果を強調する表現である
② 「～するために」という意味を表し、不定詞の目的を明確にする・強調する表現である
③ 「～すること」という意味を表し、不定詞の名詞的用法を強調する表現である
④ 「～すべき」という意味を表し、不定詞の義務・必要を強調する表現である
- (31) 〈so as to V〉についての説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。
① 「～した結果」という意味を表し、不定詞の結果を強調する表現である
② 「～するために」という意味を表し、不定詞の目的を明確にする・強調する表現である
③ 「～するほど」という意味を表し、不定詞の程度を強調する表現である
④ 「～すべき」という意味を表し、不定詞の義務・必要を強調する表現である
- (32) 〈too ～ to V〉についての説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。
① 「V するのに十分～だ」という意味を表し、〈～ enough to V〉と同じ意味になる
② 「V するためにとても～だ」という意味を表し、不定詞の目的を表す表現である
③ 「V するには～すぎる」という意味を表し、結果として「あまりに～なので V できない」という意味になる
④ 「V するほど～ではない」という意味を表し、不定詞の程度の不足を表す表現である
- (33) 〈too ～ to V〉で不定詞の意味上の主語を示す場合、その位置と形について最も適切なものを1つ選びなさい。
① 意味上の主語は、too の直前に〈for+A〉の形で置き、〈for A too ～ to V〉とする
② 意味上の主語は、形容詞の直後にそのまま置き、〈too ～ A to V〉とする
③ 意味上の主語は、不定詞〈to V〉の直後に〈for+A〉の形で置き、〈too ～ to V for A〉とする
④ 意味上の主語は、不定詞〈to V〉の直前に〈for+A〉の形で置き、〈too ～ for A to V〉とする
- (34) 〈too ～ to V〉と〈so ～ that …〉の書き換えについて、最も適切なものを1つ選びなさい。
① 〈too ～ to V〉は、〈so ～ that S can V〉の形に書き換えることができる
② 〈too ～ to V〉は、〈so ～ that S will not V〉の形に書き換えることができる
③ 〈too ～ to V〉は、〈so ～ that S cannot V〉の形に書き換えることができる

- ④ 〈too ~ to V〉は、〈so ~ that S must V〉の形に書き換えることができる
- (35) 〈so+形容詞+that ...〉への書き換えで、that 節の中に it が必要になる場合、その理由として最も適切なものを1つ選びなさい。
- This book is too difficult for me to read.
= This book is so difficult that I cannot read it.
- ① that 節の中は完全な文〈完全文〉にする必要があり、read は他動詞なので目的語の it が必要になるから
- ② that 節の中では、主節に出てきた名詞を必ず it に置き換えて、主語としてもう一度示す必要があるから
- ③ that 節の中では、他動詞の目的語を省略することができ、it は文の意味を強調するためだけに置かれているから
- ④ that 節の中の it は形式目的語であり、後ろに続く不定詞の内容を受けるために必要になるから
- (36) 【発展】〈too ~ to V〉では、不定詞の中に it が必要ない理由として最も適切なものを1つ選びなさい。
- This book is too difficult for me to read.
- ① 不定詞〈to V〉の中は完全文である必要がなく、read の目的語が主節の主語 This book だとわかるため
- ② 不定詞〈to V〉の中では、他動詞であっても目的語を置くことが文法上できないため
- ③ 不定詞〈to V〉の中では、it のような代名詞を目的語として使うことができないため
- ④ 不定詞〈to V〉の中では、主節に出てきた名詞を it で表すと意味が強調されすぎるため
- (37) 【発展】次の文で live の後ろに in が必要な理由として、最も適切なものを1つ選びなさい。
- The area is easy to live in.
- ① live は自動詞で、「その地域に住む」は live in the area となり、the area が前に出ても前置詞 in は残るため
- ② live は他動詞であるが、不定詞の中では目的語の前に必ず前置詞 in を置く必要があるため
- ③ easy の後ろに不定詞が続く場合は、〈to V+前置詞〉の形にしなければならないため
- ④ the area は不定詞の意味上の主語なので、live と the area の関係を示すために in が必要になるため
- (38) 【発展】次の文が不自然な理由として、最も適切なものを1つ選びなさい。
- The topic is hard to speak.
- The topic is hard to speak about.
- ① 主語が不定詞の意味上の主語になる場合、不定詞の直前に〈for+主語〉を置かなければならないから

② 〈be 動詞＋形容詞＋to V〉では、自動詞を用いる場合、その後ろに前置詞を続けることができないから

③ 主語が不定詞内の前置詞の目的語にあたる場合、目的語は省略するが、その前置詞は残す必要があるから

④ 主語が不定詞内の目的語にあたる場合、目的語だけでなく、その前にある前置詞も省略する必要があるから

- (39) 【発展】次の文で、read の後ろに目的語が必要ない理由として、最も適切なものを1つ選びなさい。

This book is easy to read.

× This book is easy to read it.

① 主語が不定詞内の他動詞の目的語にあたる場合、不定詞全体が主語を修飾しているため、目的語を置く必要がないから

② 主語が不定詞内の他動詞の目的語にあたる場合、主語と目的語が同じ内容を表すときは、どちらか一方を省略できるから

③ 主語が不定詞内の他動詞の目的語にあたる場合、その目的語は省略するため、read の後ろには何も置かないから

④ 主語が不定詞内の他動詞の目的語にあたる場合、目的語は不定詞の意味上の主語として扱われるため、read の後ろには置かないから

- (40) enough の使い方について、最も適切な説明を1つ選びなさい。

① enough は、名詞を修飾する場合も形容詞・副詞を修飾する場合も、その語の前に置く

② enough は、名詞を修飾する場合も形容詞・副詞を修飾する場合も、その語の後ろに置く

③ enough は、名詞を修飾する場合は名詞の後ろに置き、形容詞・副詞を修飾する場合はその前に置く

④ enough は、名詞を修飾する場合は名詞の前に置き、形容詞・副詞を修飾する場合はその後ろに置く

- (41) 〈too ～ to V〉で意味上の主語と否定語をともに用いる場合、その位置について最も適切な説明を1つ選びなさい。

① 〈too ～ to V〉では、不定詞の意味上の主語を用いることができず、否定語 not だけを to V の直前に置く

② 不定詞の意味上の主語は、常に文の主語と同じであり、別を示すことはできない

③ 意味上の主語は〈of＋A〉の形で to V の直前に置き、否定語 not は to V の直前に置く

④ 意味上の主語は〈for＋A〉の形で to V の直前に置き、否定語 not は to V の直前に置く

- (42) 〈形容詞＋enough to V〉で意味上の主語と否定語をともに用いる場合、その位置について最も適切な説明を1つ選びなさい。

- ① 〈形容詞+enough to V〉では、不定詞の意味上の主語を用いることができず、否定語 not だけを to V の直前に置く
- ② 不定詞の意味上の主語は、常に文の主語と同じであり、別に示すことはできない
- ③ 意味上の主語は〈of+A〉の形で to V の直前に置き、否定語 not は to V の直前に置く
- ④ 意味上の主語は〈for+A〉の形で to V の直前に置き、否定語 not は to V の直前に置く
- (43) 形式主語構文〈It is ~ to V〉について、〈It is〉の後に来るものとして最も適切なものを 1 つ選びなさい。
- It is important to study English every day.
- ① 〈It is〉の後には、基本的に形容詞が置かれ、まれに名詞が置かれることもある
- ② 〈It is〉の後には、基本的に動詞の原形が置かれ、まれに形容詞が置かれることもある
- ③ 〈It is〉の後には、基本的に副詞が置かれ、まれに名詞が置かれることもある
- ④ 〈It is〉の後には、基本的に名詞が置かれ、まれに動詞の原形が置かれることもある
- (44) 次の例文の It の名称として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。
- It is important to study English every day.
- ① 形式主語
- ② 真主語
- ③ 状況の it
- ④ 指示代名詞
- (45) 不定詞の意味上の主語を示す場合、その位置についての説明として最も適切なものを 1 つ選びなさい。
- ① 意味上の主語は、不定詞〈to V〉の直前に〈for+人〉などの形で置く
- ② 意味上の主語は、不定詞〈to V〉の直後に〈for+人〉などの形で置く
- ③ 意味上の主語は、文頭に置き、必ず文全体の主語として用いる
- ④ 意味上の主語は、主節の動詞の直後に置き、不定詞とは離して用いる
- (46) 〈It is ~ for A to V〉と〈It is ~ of A to V〉の使い分けについて、最も適切な説明を 1 つ選びなさい。
- ① 〈It is〉の後ろが人の性質・性格を表す形容詞の場合は〈of A〉を用い、それ以外は原則として〈for A〉を用いる
- ② 〈It is〉の後ろが人の性質・性格を表す形容詞の場合は〈for A〉を用い、それ以外は原則として〈of A〉を用いる
- ③ 〈It is〉の後ろが肯定的な形容詞の場合は〈for A〉を用い、否定的な形容詞の場合は〈of A〉を用いる
- ④ 〈It is〉の後ろが難易度を表す形容詞の場合は〈of A〉を用い、重要性を表す形容詞の場合は〈for A〉を用いる
- (47) 次の中から、人の性質・性格を表す形容詞の組み合わせとして、最も適切なものを 1 つ選び

なさい。

① natural・necessary・careful・difficult

② easy・kind・possible・dangerous

③ necessary・foolish・hard・important

④ kind・careless・foolish・wise

- (48) 次の中から、主に自動詞として使われる動詞の組み合わせとして、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

① arrive・have・remain・visit

② visit・discuss・live・meet

③ want・enter・stay・leave

④ go・come・arrive・happen

- (49) 次の中から、主に他動詞として使われる動詞の組み合わせとして、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

① arrive・forget・come・rise

② like・go・remember・make

③ decide・remain・promise・stay

④ have・try・visit・discuss

- (50) 「暖かい飲み物」を表す語順について、最も適切な説明を 1 つ選びなさい。

① something は、修飾語句である形容詞を前に置くため、〈hot something to drink〉の語順になる

② something は、修飾語句である形容詞を後ろに置くため、〈something hot to drink〉の語順になる

③ something は、形容詞を後ろに置くが、不定詞は前に置くため、〈to drink something hot〉の語順になる

④ something は、形容詞と不定詞をともに前に置くため、〈to drink hot something〉の語順になる

- (51) 「冷たい食べ物」を表す語順について、最も適切な説明を 1 つ選びなさい。

① something は、修飾語句である形容詞を前に置くため、〈cold something to eat〉の語順になる

② something は、修飾語句である形容詞を後ろに置くため、〈something cold to eat〉の語順になる

③ something は、形容詞を後ろに置くが、不定詞は前に置くため、〈to eat something cold〉の語順になる

④ something は、形容詞と不定詞をともに前に置くため、〈to eat cold something〉の語順になる

- (52) 「面白い読み物」を表す語順について、最も適切な説明を 1 つ選びなさい。

① something は、修飾語句である形容詞を前に置くため、〈interesting something

to read)の語順になる

② something は、修飾語句である形容詞を後ろに置くため、〈something interesting to read)の語順になる

③ something は、形容詞を後ろに置くが、不定詞は前に置くため、〈to read something interesting)の語順になる

④ something は、形容詞と不定詞をともに前に置くため、〈to read interesting something)の語順になる

(53) 次の文が誤りである理由として、最も適切なものを1つ選びなさい。

× Jane needs a chair to sit.

① sit は他動詞なので、目的語 a chair を直接後ろに置く必要があるから

② sit は自動詞で、「いすに座る」は sit on a chair となり、a chair が前に出て前置詞 on は残す必要があるから

③ a chair は sit の目的語にあたるので、sit の直後に a chair をもう一度置く必要があるから

④ a chair を不定詞が修飾する場合、不定詞の動詞は自動詞でなければならないから

(54) 次の文で、write の後ろに with が必要な理由として、最も適切なものを1つ選びなさい。

I need some sheets of paper to write with.

① write は自動詞なので、後ろには必ず前置詞 with を置かなければならないから

② paper は write の目的語なので、〈write paper〉を作るために with が必要だから

③ 「その紙を使って書く」という関係で、some sheets of paper が〈write with ~〉の前置詞 with の目的語にあたるため、paper が前に出て with は残す必要があるから

④ some sheets of paper は write の目的語にあたるが、不定詞では目的語を省略する代わりに with を置く必要があるから

(55) 次の文が誤りである理由として、最も適切なものを1つ選びなさい。

× I will buy something wear to nice.

① something を形容詞と不定詞が修飾する場合、〈形容詞+something+to V〉の語順になるから

② something を形容詞と不定詞が修飾する場合、〈something+to V+形容詞〉の語順になるから

③ something を形容詞と不定詞が修飾する場合、〈something+形容詞+to V〉の語順になるから

④ something を形容詞と不定詞が修飾する場合、〈to V+形容詞+something〉の語順になるから

(56) 〈~ enough to V〉と〈so ~ that ...〉の書き換えについて、注意点として最も適切なものを1つ選びなさい。

① 〈so ~ that ...〉に書き換える場合、時制には注意する必要があり、不定詞に意味上の

主語〈for A〉があるときも、〈for A〉のまま that 節の中に残す

② 〈so ~ that ...〉に書き換える場合、that 節の中は完全文にする必要はないが、不定詞に意味上の主語〈for A〉があるときは、A を主格に変えて that 節の主語にする

③ 〈so ~ that ...〉に書き換える場合、that 節の中は完全文にし、不定詞に意味上の主語〈for A〉があるときは A を主格に変えて that 節の主語にするとともに、時制にも注意する

④ 〈so ~ that ...〉に書き換える場合、that 節の中は必ず〈S+can+V〉の形にし、不定詞の意味上の主語や文全体の時制を考える必要はない

(57) 次の文が誤りである理由として、最も適切なものを1つ選びなさい。

× He is easy to solve the problem.

○ The problem is easy for him to solve.

① easy や difficult などの形容詞を用い、モノ・人が文の主語となる場合、不定詞の中は目的語などが欠けた形になるから

② easy や difficult などの形容詞を用い、モノ・人が文の主語となる場合、不定詞を用いることができないから

③ easy や difficult などの形容詞を用いる場合、不定詞の意味上の主語は常に〈for + A〉で表さなければならないから

④ easy や difficult などの形容詞を用いる場合、文の主語は不定詞の動作を行う意味上の主語でなければならないから

(58) 次の文で getting ではなく to get を用いる理由として、最も適切なものを1つ選びなさい。

× My sister went back to university again getting a new job.

○ My sister went back to university again to get a new job.

① 「新しい仕事を得るために」という目的を表す場合は、不定詞の副詞的用法〈to V〉を用いるから

② 〈getting〉を用いると、「新しい仕事を得ること」という名詞の働きをし、went back の目的語になるから

③ 〈getting〉を用いると、「新しい仕事を得ながら」という同時進行の意味になり、went back の目的を表すから

④ 〈getting〉を用いると、「新しい仕事を得た結果」という意味になり、went back の結果を表すから

- (1) ① (2) ① (3) ① (4) ① (5) ② (6) ④ (7) ③ (8) ③ (9) ④ (10) ③
(11) ① (12) ② (13) ③ (14) ① (15) ① (16) ① (17) ① (18) ① (19) ② (20) ③
(21) ① (22) ② (23) ① (24) ① (25) ① (26) ② (27) ② (28) ① (29) ③ (30) ②
(31) ② (32) ③ (33) ④ (34) ③ (35) ① (36) ① (37) ① (38) ③ (39) ③ (40) ④
(41) ④ (42) ④ (43) ① (44) ① (45) ① (46) ① (47) ④ (48) ④ (49) ④ (50) ②
(51) ② (52) ② (53) ② (54) ③ (55) ③ (56) ③ (57) ① (58) ① (59) ①